

平成 3 1 年度全国学力・学習状況調査における 秋田市の結果について

平成31年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

● 調査概要 ●

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から継続して実施してきました。

今年度の調査は4月18日に行われ、「主として知識に関する問題」と「主として活用に関する問題」が一体化されました。また、国語と算数・数学に加え、中学校において初めて英語の調査が行われました。なお、英語の調査は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4領域について行われましたが、「話すこと」についての結果は国が公表していないことから、本市の結果には掲載しておりません。

● 本市調査結果の概要 ●

【教科調査の概要「全般」】

- 小学校6年生2,279名、中学校3年生2,195名が参加しました。
- 国語、算数・数学、英語の各領域ごとの平均正答率は、小学生・中学生共に全国平均を上回りました。
- 無解答率は、小学校中学校共に、全教科の全ての設問で全国平均を下回りました。

【教科調査の概要「国語」】

- 小学校では、話の展開に沿って適切な質問をすること、目的に応じて本や文章全体を概観して読むことなどがよくできていました。
一方、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと、同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使うことなどについては、課題があるととらえています。
- 中学校では、文章を読み返し、より分かりやすい語句や文の使い方を検討すること、文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えを持つことなどがよくできていました。
一方、話合いの流れを踏まえて自分の考えを書くこと、文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえることなどについては、課題があるととらえています。

平成31年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

【教科調査の概要「算数・数学」】

- 小学校では、棒グラフから増減の様子を読み取ること、様々な四角形から台形を選択することなどがよくできていました。
一方、計算の仕方を他の演算に適用し説明すること、図形と面積を求める式とを関連付けて説明することなどについては課題があるにとらえています。
- 中学校では、平行移動の移動距離を求めること、同じ条件であっても異なる結論が導かれる場合があることを理解することなどがよくできていました。
一方、グラフから事象や状況を解釈すること、解決の方法を数学的に説明することなどについては課題があるにとらえています。

【教科調査の概要「英語」】

- 語と語の連結による音変化をとらえ、内容を正確に聞き取ること、Classroom English を聞いて情報を正確に聞き取ることなどがよくできていました。
一方、まとまりのある文章の内容や意図を正しく聞き取ることや読み取ること、必要な表現を用いて自分の考えを正しく書くことについては課題があるにとらえています。

【児童生徒質問紙調査の概要】

- 「自分自身について」「自分には、よいところがあると思う」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」「人の役に立つ人間になりたい」など、自分自身のよさを知り、向上心を持って生活している子どもの割合が、全国平均を上回っています。
- 「人との関わりについて」「先生は、自分のよいところを認めてくれている」「学級みんなで話合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」など、学校生活において先生や友達と良好に関わっている子どもの割合が、全国平均を上回っています。
- 「家庭生活について」「毎日もしくはどちらかといえば毎日朝食を食べている」「家で自分で計画を立てて勉強をする」など、基本的な生活習慣を身に付けている子どもの割合が、全国平均を上回っています。
- 「学習について」「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」など、主体的、発展的に学習活動に取り組んでいる子どもの割合が、全国平均を上回っています。一方、「これまで受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した」については、小学校が全国平均を下回っています。

小学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【平成31年度】

● 話すこと・聞くこと ● 問題 3

インタビューの場面で、話の展開を踏まえ、自分の理解を確かめるための質問を選択する問題の正答率は86%、目的に応じた質問の工夫を選択する問題の正答率は75%、聞き出した情報を整理し、自分の考えをまとめる問題の正答率は81%で、いずれも全国平均を5～13ポイント上回っています。

● 書くこと ● 問題 1

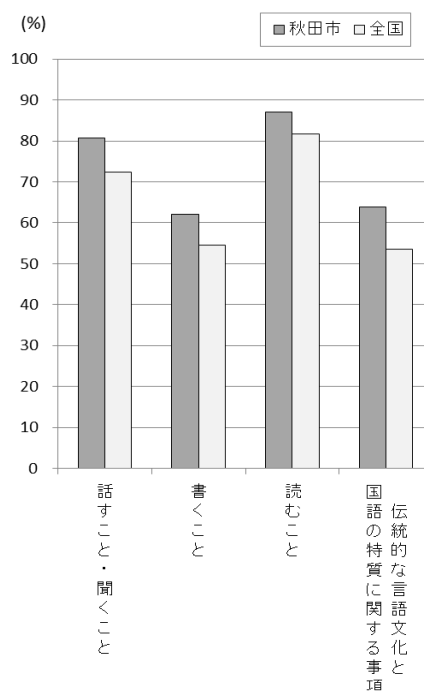
調べたことを報告する文章で、図表を用いた目的を選択する問題の正答率は78%、報告する文章の書き方の工夫を選択する問題の正答率は70%で、いずれも全国平均を6～7ポイント上回っています。

一方、調査の内容と結果から分かったことをまとめて書く問題の正答率は38%でした。誤答のうち、約5割は報告する文章にふさわしい表現で書くことはできているものの、取り上げるべき二つのうち、いずれかのみを取り上げて書いたものでした。目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題があるととらえています。

【問題例参照】

小・国語

平均正答率



● 読むこと ● 問題 2

資料を読み、内容をまとめたノートの一部に入るものを選択する問題の正答率は86%、ノートの一部に入る内容を条件に合わせて書く問題の正答率は83%、さらに必要な情報を得るために適切なものを選択する問題の正答率は92%で、いずれも全国平均を4～8ポイント上回っています。

● 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ● 問題 1、3

ことわざの使い方の例を選択する問題の正答率は81%でした。

一方、文脈の中で漢字を正しく書く問題では、「対象」の正答率が59%で、誤答のうち約4割が「対」は書けているものの「象」を「照」などとしたものでした。「関心」の正答率は42%で、誤答のうち約8割が「心」は書けているものの「関」を「感」としたものでした。同音異義語を文の中で正しく使うことに課題があるととらえています。

【課題となっている問題例】（問題部分のみ）

三 ①

高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の□に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。□に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

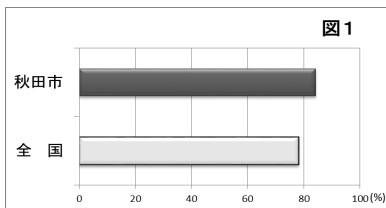
○ 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ 「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。

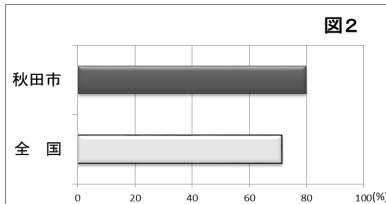
○ 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※正答例は、紙面の関係で省略します。
※問題文は、教育研究所のホームページに掲載しています。

質問紙調査から「国語の学習について」



「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した児童の割合は84%で、全国平均を6ポイント上回っています（図1）。



「文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見付けたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」と回答した児童の割合は80%で、全国平均を9ポイント上回っています（図2）。

「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」と回答した児童の割合は84%で、全国平均を7ポイント上回っています。

小学校国語「本調査（ペーパーテスト）では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく発表する力、話題に沿って話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、主体的に学習に取り組むことができるよう、学び方の定着を図ったり、課題提示の仕方を工夫したりするなどしています。また、詩歌や物語の音読を通して、言葉の美しさやリズムを感じたり、登場人物の気持ちや場面の様子を思い浮かべたりし、表現する楽しさを味わいながら学習活動に取り組む子どもたちの姿が見られます。

一方、話合いの展開に沿って、意見を述べたり、自分の意見と比べて考えをまとめたりすることなどについては、十分とは言えない状況にあります。話合いを通して、自分の考えを確かめたり広げたりすることができるよう、立場や意見の違いを整理した上で質問や意見を述べる学習活動の充実を図ることが大切です。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、目的を明確にして聞き、関連して考えたことを整理する活動を通して、目的に応じた質問や意見を述べる力を高める指導の充実を図ります。

「書くこと」については、調べた内容や取材した事柄についてまとめる活動を通して、図表やグラフなどの資料を用いて分かりやすい表現となるよう工夫させたり、文章全体の構成を考えさせたりする指導の工夫を図ります。

「読むこと」については、文章や資料全体の特徴をとらえた上で、必要な情報を整理するなど、目的や状況に応じて内容を的確に読み取ることができるような指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、漢字の読みや意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文をつくらしたりするなどの学習を取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるような指導の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

身に付けさせたい言葉や表現等を授業や生活の中で取り上げたり、複数の本や資料を読み比べ、情報や感想などを交流したりする学習活動を通して、語彙を豊かにし、自分の考えの広がりや深まりを実感することができるような指導の充実を図ります。

小学校算数 領域ごとの調査結果の主な特徴 【平成31年度】

●数と計算 ● 問題2、3、4

工夫して計算したひき算の仕方をもとに、別のひき算の答えを求める問題の正答率は85%でした。また、たし算とかけ算の混じった計算問題の正答率は71%でした。

一方、工夫して計算したひき算の説明をもとに、別のわり算の計算の仕方を説明する問題の正答率は42%でした。計算の仕方や手順を文章で表現することに課題があるととらえています。

【問題例参照】

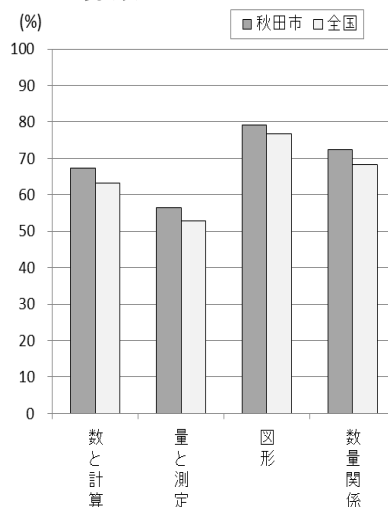
●量と測定 ● 問題1、2、4

買い物の場面で、決められた時間内にレジに着くかどうかを判断する問題の正答率は70%でした。

一方、ひき算の式が、示された図形の面積をどのように求めているのかを説明する問題の正答率は42%でした。面積の求め方を文章で表現することに課題があるととらえています。

算数

平均正答率



●図形 ● 問題1

長方形を複数の直線で切ってできた図形の中から台形を選択する問題の正答率は92%でした。

一方、合同な2つの台形を組み合わせてつくることのできる図形を選択する問題の正答率は67%でした。辺の長さや角の大きさ、図形の性質などに着目し、図形の特徴をとらえることに課題が見られます。

●数量関係 ● 問題2、3、4

棒グラフから、増減の様子を正しく読み取っているものを選択する問題の正答率は97%でした。また、遊園地のチケット販売の列に並ぶ場面で、自分の順番がくる時間を知るためには何を調べればよいかを選択する問題の正答率は85%でした。

一方、工夫して計算するためのわり算の式が、何を求めているのかを選択する問題の正答率は46%でした。計算を工夫しても式の意味は変わらないことの理解に課題があるととらえています。

【課題となっている問題例】 3 計算の仕方の解釈と発展的な考察（計算の工夫）

【ひき算のまとめ】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

【簡単なわり算の仕方】

$400 \div 25 = \blacksquare$
 $\downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4$
 $1600 \div 100 = 16$
 $\blacksquare$ と16は変わらないので、 $400 \div 25$ の答えは16です。

$90 \div 18 = \blacksquare$
 $\downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9$
 $10 \div 2 = 5$
 $\blacksquare$ と5は変わらないので、 $90 \div 18$ の答えは5です。

【ひき算のまとめ】と同じように、わり算についても、【簡単なわり算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の「 $\square$ 」の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きなさい。

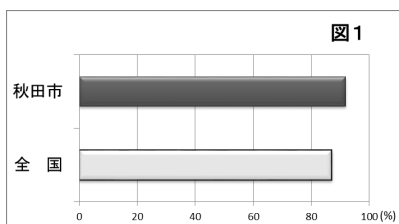
わりざんでは

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

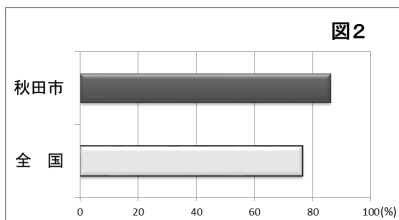
正答

わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。

質問紙調査から「算数の学習について」



「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合は92%で、全国平均5ポイント上回っています（図1）。



「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童の割合は86%で、全国平均を10ポイント上回っています（図2）。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童の割合は96%で、全国平均を3ポイント上回っています。

小学校算数「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、「学ぶ意欲」などの興味・関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、課題提示の仕方を工夫したり、解決の見通しを持たせたりすることなどにより、子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいます。また、日常生活の具体的な課題解決の場面を設定し、算数の学習で培った知識・技能等を活用して自力解決を図るための方策を工夫するなどにより、子どもたちは算数の学習は日常生活と深く関連していると感じています。

一方、時間内に振り返りの時間を確保できなかったり、視点があいまいなまま学び合ったりする場面が見られ、話し合い活動を中心とした学習過程の工夫を図る必要があります。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「数と計算」では、計算に関して成り立つ性質が他の演算でも成り立つことを説明するなど、算数の用語を用いて表現する活動の充実を図ります。

「量と測定」では、面積を求める式を作ったり、面積を求める式が図のどの部分に当たるのかを説明したりするなど、図と式を関連付ける活動の充実を図ります。

「図形」では、合同な三角形を組み合わせてできた四角形の性質を説明し合うなど、具体物を用いた活動の充実を図ります。

「数量関係」では、工夫して計算するための方法を考える場面で、それぞれの式が持つ意味を考察し説明する活動の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するためには、個の変容が自覚できる振り返りを意図的に取り上げることなどを通して主体的な学びを促したり、考えを整理し、深めるための手立てを講じることなどを通して対話的な学びの充実を図ったりします。また、多様な考えをまとめたり、適用問題を通して新たな課題を見いだしたりすることなどを通して、深い学びの実現を目指します。

中学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【平成31年度】

● 話すこと・聞くこと ● 問題2

話し合いでの発言の役割について説明したものを選択する問題の正答率は85%で、全国平均を5ポイント上回っています。

一方、話し合いの話題や方向を踏まえ、自分の考えを書く問題の正答率は68%でした。目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめることに課題があるととらえています。

● 書くこと ● 問題3

意見文の下書きに書き加える言葉を選択する問題の正答率は90%でした。また、資料に示された情報を用いて、意見文の下書きに具体例を書き加える問題の正答率は85%で、全国平均を7ポイント上回っています。

読み手に分かりやすい表現となるよう、資料から具体例を取り上げたり、自分の考えを書き加えたりすることがよくできていました。

● 読むこと ● 問題1

短歌を読んで感じたことや考えたことを記述する問題の正答率は95%で、全国平均を4ポイント上回っています。

一方、文章の構成や展開、表現の仕方を選択する問題の正答率は69%で、誤答のうち約8割は、書き手の目的や意図、その効果について理解できていないことが原因と考えられます。

また、文章で述べられている内容を全て選択する問題の正答率は69%でした。文章の展開に即して複数の情報を整理し、文章全体の内容を的確にとらえることに課題があるととらえています。【問題例参照】

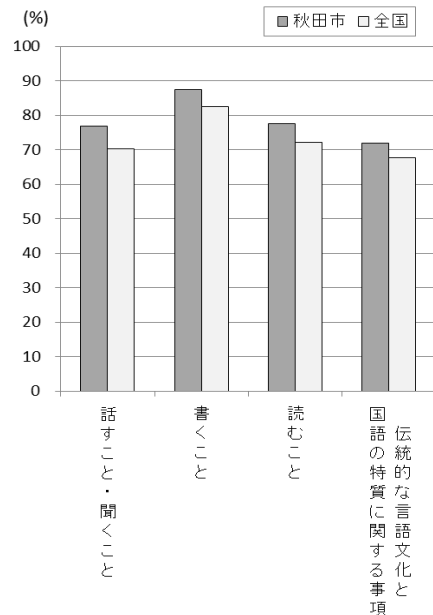
● 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ● 問題1、4

語の一部を省いた表現についての説明を選択する問題の正答率は83%で、全国平均を4ポイント上回っています。

一方、封筒に投稿先の名前と住所を書く問題の正答率は61%でした。封筒に宛名や住所を正しく書くこと、文字の大きさや配列などに注意して書くことに課題が見られます。

中・国語

平均正答率



【課題となっている問題例】（問題部分のみ）

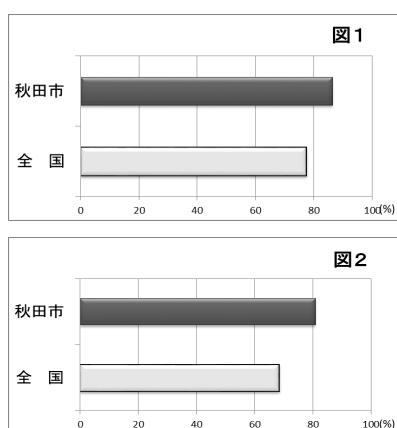
二[1] 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを、次の1から5までのの中から**全て**選びなさい。

- 1 インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。
- 2 主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。
- 3 ボックスランチやカスクルートなどは異なり、戸外に持ち出して食べることもできる。
- 4 いろいろな料理が詰められているので、食べ物の風味を保つことができる。
- 5 様々なデザインの弁当箱があり、自分の好みのものを選ぶことができる。

※問題文は、教育研究所のホームページに掲載しています。

正答 2、5

質問紙調査から「国語の学習について」



「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した生徒の割合は86%で、全国平均を9ポイント上回っています（図1）。

「文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見付けたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」と回答した生徒の割合は81%で、全国平均を13ポイント上回っています（図2）。

「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」と回答した生徒の割合は81%で、全国平均を9ポイント上回っています。

中学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく発表する力、話題に沿って話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、主体的に学習に取り組むことができるよう、様々な教材を用い、既習事項を活用した言語活動や目的を明確にした学び合いの充実が図られています。また、より分かりやすい表現になるよう吟味する活動を通して、表現する力を高めるための工夫が図られています。

一方、目的や場面に応じて、自分の意見と比べながら考えをまとめて述べることなどについては、十分とは言えない状況にあります。話し合い活動において、立場や意見の違いを整理したり、根拠を明確にした上で意見を述べたりし、自分の考えを広げることができるような学習の充実を図ることが大切です。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、互いの考えの共通点や相違点を整理する活動、互いの発言を生かして考えをまとめる活動を通して、目的に沿って話し合い、自分の考えを広げることができるような指導の工夫を図ります。

「書くこと」については、書いた文章を互いに読み合い、考えや具体例の示し方について吟味する活動などを通して、目的や意図に応じて分かりやすく書く力を高める指導の充実を図ります。

「読むこと」については、文章とグラフを関連付けて読んだり、表現の工夫とその効果について考えたりする活動を通して、文章の構成や展開を理解し、内容を的確にとらえる力を高めるなど、文章の種類に応じた読み方を身に付けさせる指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意して書く活動を取り入れるなど、日常生活や各教科等の学習とを意図的に関連させ、身に付けた力を活用できるような指導の工夫を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

身に付けさせたい言葉や表現等を授業や生活の中で取り上げたり、複数の本や資料から情報を収集し、検討したりする学習活動等を通して、語彙を豊かにし、自分の考えの広がりや深まりを実感することができるような指導の充実を図ります。

中学校数学 領域ごとの調査結果の主な特徴【平成31年度】

数と式 問題 1、2、9

a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選択する問題の正答率は72%でした。

一方、連続する奇数の和について、文字式を使った説明を読み、結論を導くために式を変形する理由を記述する問題の正答率は62%でした。式変形の目的をとらえることに課題があるととらえています。

図形 問題 3、7

平行移動の移動距離を求める問題の正答率は86%でした。また、同じ条件であっても対象が正方形と平行四辺形では、異なる結論が導かれることを確かめる問題の正答率は81%でした。

一方、結論が成り立つためには、どのような条件が必要かを見いだす問題の正答率は59%でした。証明を振り返って統合的・発展的に考察し、新たな性質を見いだすことに課題があるととらえています。

関数 問題 4、6

冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を示したグラフで、電気代を表した部分の意味を正しく説明しているものを選択する問題の正答率は39%、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する問題の正答率は37%でした。グラフから事象や状況を解釈したり、解決の方法を数学的に説明したりすることに課題があるととらえています。【問題例参照】

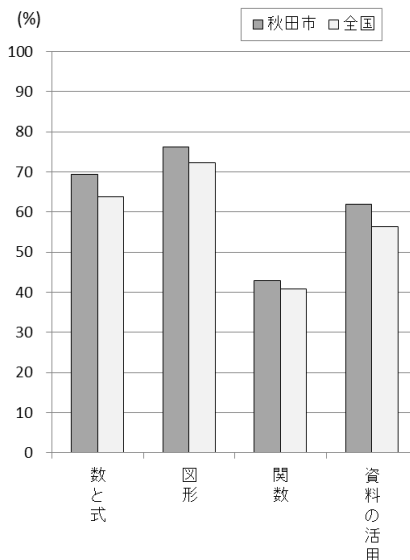
資料の活用 問題 5、8

2枚の硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の確率を求める問題の正答率は76%でした。

一方、説明の根拠として平均値を用いることが適切でない理由を記述する問題の正答率は45%でした。資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的に説明することに課題があるととらえています。

数学

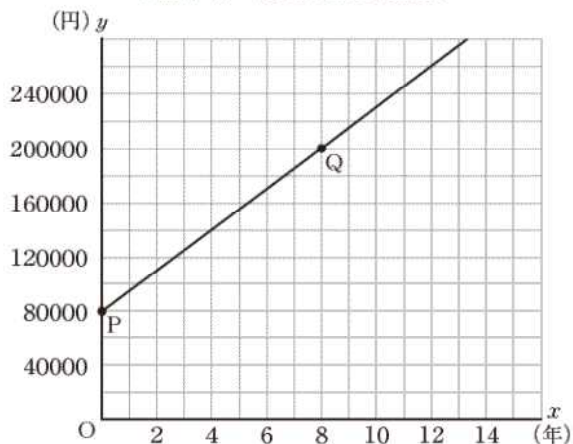
平均正答率



【課題となっている問題例】 6 事象の数学的な解釈と問題解決の方法

- (1) 上のグラフの点Pの y 座標と点Qの y 座標の差は何を表していますか。

冷蔵庫Aの使用年数と総費用



正答 購入してから8年間の電気代

- (2) 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を、下のア、イのどちらかを選び、説明しなさい。

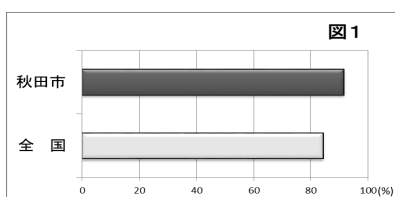
	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容 量	500L	500L
本 体 価 格	100,000円	150,000円
1年間の電気代	11,000円	6,500円

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + (\text{1年間の電気代}) \times (\text{使用年数})$$

- ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式
イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

正答例 ア：冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式を連立方程式にして解く。
イ：冷蔵庫の使用年数と総費用の関係をグラフに表し、交点の座標を読み取る。

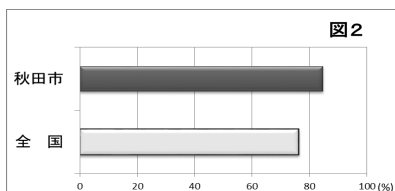
質問紙調査から「数学の学習について」



「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合は77%で、全国平均を3ポイント上回っています。

「数学の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は91%で、全国平均を7ポイント上回っています(図1)。

「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は85%で、全国平均を9ポイント上回っています(図2)。



中学校数学「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、「学ぶ意欲」などの興味・関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、解決の必要性を感じる課題や、多様な考えが生まれる課題を設定することなどにより、子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいます。また、課題を解決する場面では、「簡単にできる」「分かりやすい」「いつでも使える」などの視点で比較検討し、より深く考えるための手立てを講ずることにより、子どもたちは数学の学習は社会に出たときに、課題をよりよく解決するための力を身に付けられると感じています。

一方、容易に解決できない課題を考える場面で、教師が主導となって導いていくことが多く、子ども同士の学び合いの一層の充実を図り自力解決を促す必要があります。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「数と式」では、数の性質を考える場面において、目的に応じて文字式を変形したり、式の意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実を図ります。

「図形」では、条件を変更して考え直すなど、類似した事柄の間に共通する性質や新たに見いだした性質について考える活動の充実を図ります。

「関数」では、グラフの傾きや切片、変化の割合などの数値が、問題場面で何を表しているかを説明したり、表・式・グラフを関連付けて考察したりする活動を重視します。また、解決の見通しを記述したり、話し合ったりする場面を設定するなど、問題解決の手順や方法を数学的に表現する活動の充実を図ります。

「資料の活用」では、資料の傾向についての説明を振り返る場面を設けるとともに代表値の必要性や意味について話し合う活動の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するためには、課題解決に直接結びつくような見通しを持たせ、主体的な学びを促したり、自分の考えを見つめ直す場を設定することなどを通して対話的な学びの充実を図ったりします。また、学習課題と既習事項との関連を考える活動を重視して、未知の問題への解決意欲を高め、深い学びの実現を目指します。

中学校英語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【平成31年度】

● 聞くこと ● 問題 1、2、3、4

語と語の連結による音変化をとらえ、聞いた内容を描写している絵を選択する問題の正答率は92%でした。また、Classroom English を聞いてそれを描写する絵を選択する問題の正答率は89%でした。

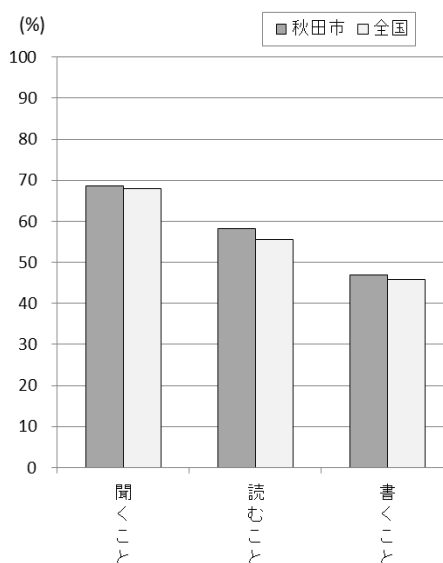
一方、留学生のメッセージを聞き、その依頼に対して適切に応答する問題の正答率は9%でした。話し手の内容や意図を正しく理解することに課題があるにとらえています。

● 読むこと ● 問題 5、6、7、8

日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を理解し、適する絵や語、文を選択する問題の正答率は78%～83%でした。

一方、書かれた内容を理解し、その文中の問いかけに対して自分の考えを簡潔に書く問題の正答率は10%でした。書かれた内容をとらえることや、書かれた内容に対して自分の考えを英語で書くことに課題があるにとらえています。

中・英語 平均正答率



● 書くこと ● 問題 9、10

文の中で、適切な接続詞を選択する問題の正答率は82%でした。また、会話の流れから時制を判断し、疑問文を書く問題の正答率は77%でした。

一方、与えられたテーマについて、自分の考えを整理し、理由などを加えながらまとまりのある文章を書く問題の正答率は2%でした。正しい語や文法事項等を理解して文章を書くことや、必要な表現を用いて自分の考えを示すことに課題があるにとらえています。【問題例参照】

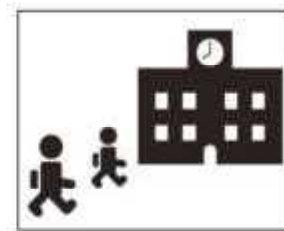
【課題となっている問題例】10 まとまりのある文章を書く

海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらが良いかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案についてふれながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【A】



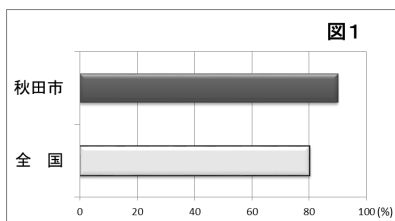
【B】



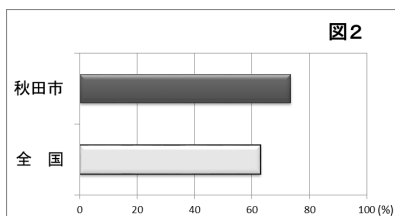
正答例

- I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library. (32words)
- I think B is better. It shows that students are walking to a building. People will understand it is a school. When poeple see A, they may think it is a juku. (32words)

質問紙調査から「英語の学習について」



「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていた」と回答したの割合は89%で、全国平均を8ポイント上回っています。



「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた」と回答した生徒の割合は90%で、全国平均を10ポイント上回っています（図1）。

「原稿などの準備をすることなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた」と回答した生徒の割合は74%で、全国平均を11ポイント上回っています（図2）。

中学校英語「本調査（ペーパーテスト）では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度などがあります。

各校では、子どもの興味・関心に応じた題材を用いた課題の設定や基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るための指導、即興力を育むために学習形態を適宜変えた言語活動など、子どもの意欲やコミュニケーション能力を高めるための工夫が見られます。

一方、既習言語をもとに相手に分かりやすく伝えることや、他者との対話を継続・発展することは十分とは言えない状況にあり、子どもが自分の考えや気持ちを述べる時間の充実を図る必要があります。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「聞くこと」については、一文一文を聞き取るだけでなく、目的・場面・状況等に応じてまとまりのある文章を聞く活動の充実を図ります。

「読むこと」については、初見の題材において、大切だと思う文を選択させるなど、話の概要や大切な部分を読み取る力を高める指導の充実を図ります。

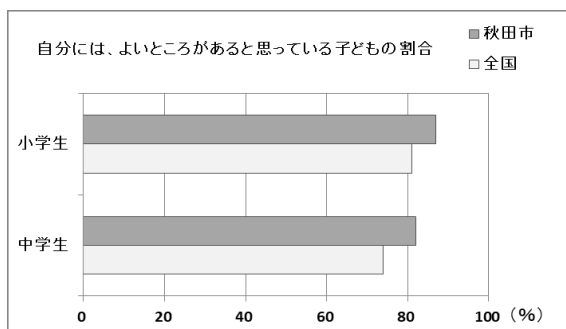
「書くこと」については、正しい語や文法事項等を理解して文章を書くことができるよう、音声と文との関係性を意識した指導の充実を図ります。また、既習の表現にふれたり、考えたりする機会を設け、まとまりのある英文を正しく書く活動の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

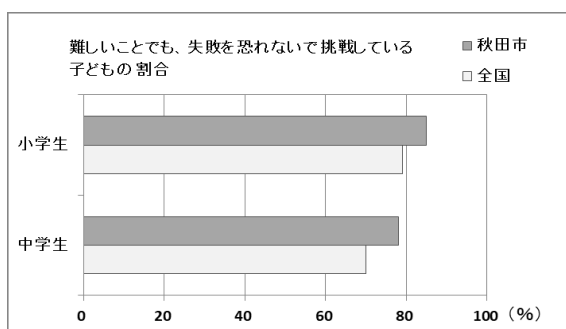
教師が会話を継続・発展させるためのモデルを見せたり、教科書の対話文をもとに会話を継続・発展させる方法について考える場面を設定したりするなど、指導過程の充実を図ります。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成31年度】

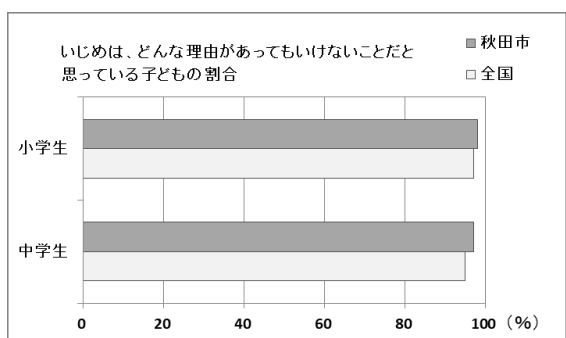
● 自分自身について ●



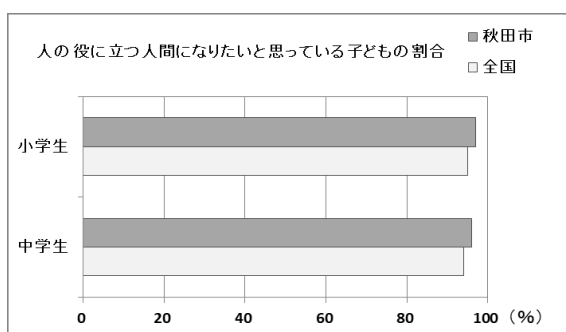
「自分には、よいところがある」と回答した子どもの割合は、小学生で87%、中学生では82%となっており、全国平均を小学生で6ポイント、中学生では8ポイント上回っています。



「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では78%で、全国平均を小学生で6ポイント、中学生では7ポイント上回っています。



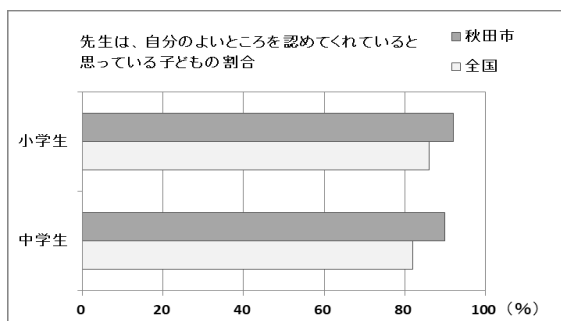
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した子どもの割合は、小学生で98%、中学生では97%となっており、全国平均を小学生で1ポイント、中学生では2ポイント上回っています。



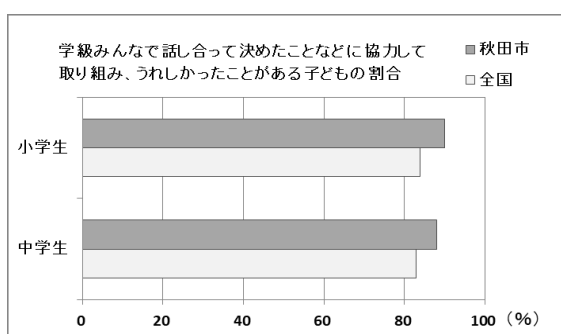
「人の役に立つ人間になりたい」と回答した子どもの割合は、小学生で97%、中学生では96%となっており、全国平均と比べると小学生・中学生共に2ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成31年度】

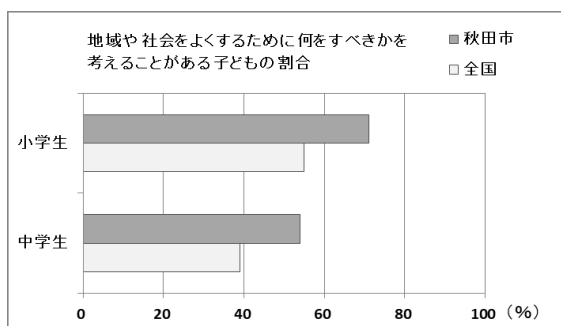
● 人との関わりについて ●



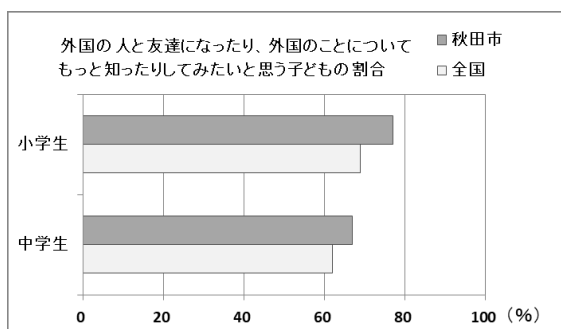
「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では90%となっており、全国平均を小学生で6ポイント、中学生では8ポイント上回っています。



「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では88%となっており、全国平均を小学生で6ポイント、中学生では5ポイント上回っています。



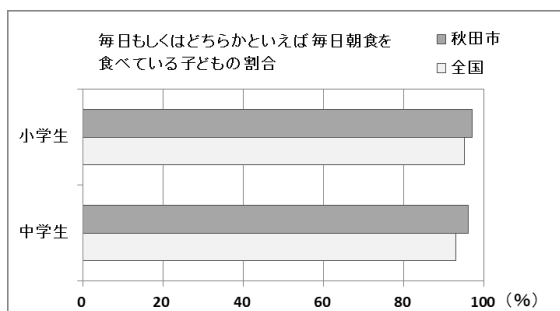
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した子どもの割合は、小学生で71%、中学生では54%で、全国平均を小学生で16ポイント、中学生では15ポイント上回っています。



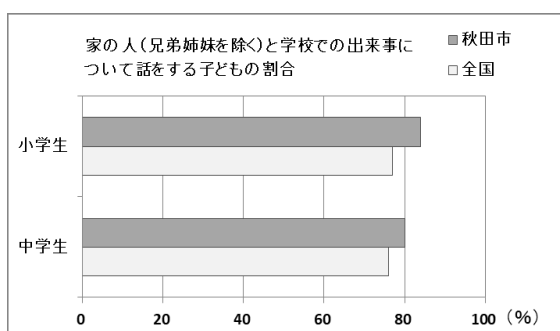
「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と回答した子どもの割合は、小学生で77%、中学生では67%となっており、全国平均を小学生で8ポイント、中学生では5ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成31年度】

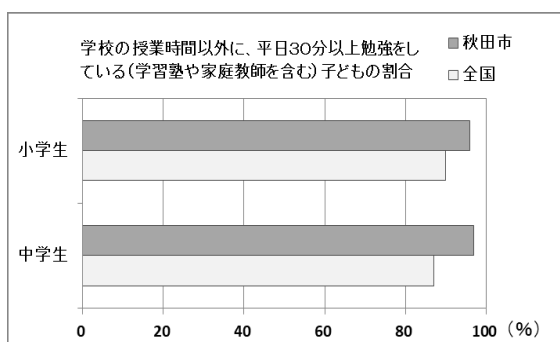
● 家庭生活について ●



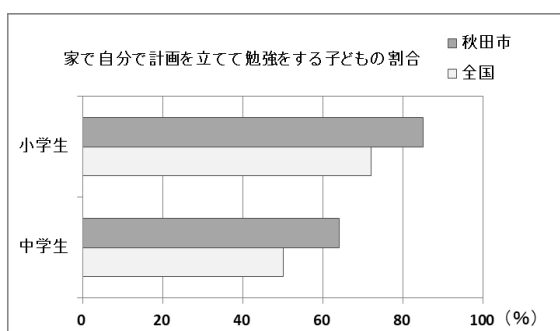
「毎日もしくはどちらかといえば毎日朝食を食べている」と回答した子どもの割合は、小学生で97%、中学生では96%となっており、全国平均を小学生で2ポイント、中学生では3ポイント上回っています。



「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」と回答した子どもの割合は、小学生で84%、中学生では80%となっており、小学生で6ポイント、中学生では4ポイント全国平均を上回っています。



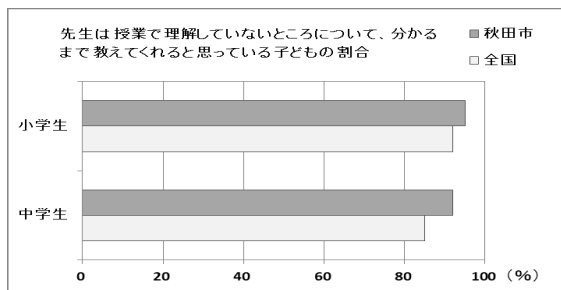
「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている（学習塾や家庭教師を含む）」と回答した子どもの割合は、小学生で96%、中学生では97%となっており、全国平均を小学生で6ポイント、中学生では10ポイント上回っています。



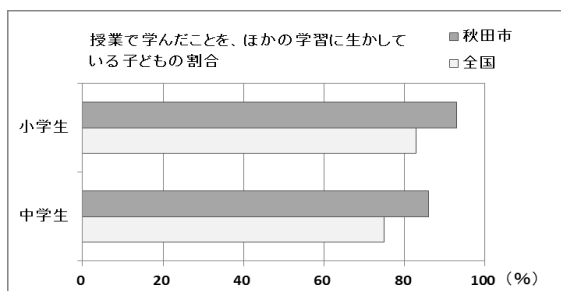
「家で自分で計画を立てて勉強をする」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では64%となっており、小学生・中学生共に13ポイント全国平均を上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成31年度】

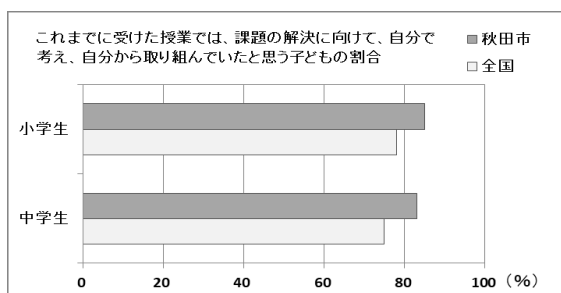
● 学習について ●



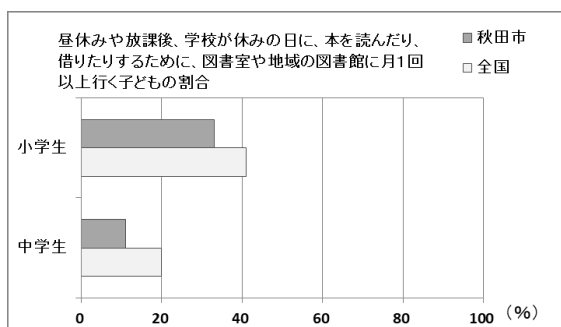
「先生は、授業で理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した子どもの割合は、小学生で95%、中学生では92%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では7ポイント上回っています。



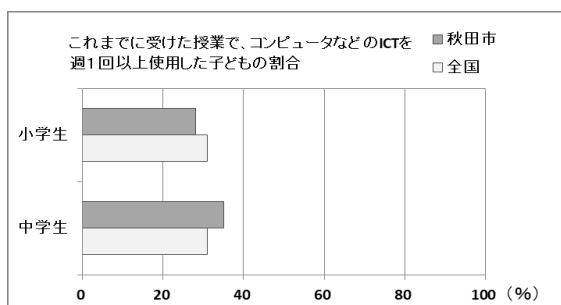
「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」と回答した子どもの割合は、小学生で93%、中学生では86%となっており、全国平均を小学生は10ポイント、中学生では11ポイント上回っています。



「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では83%となっており、全国平均を小学生は7ポイント、中学生では9ポイント上回っています。



「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、図書室や地域の図書館に月1回以上行く」と回答した子どもの割合は、小学生で33%、中学生では11%となっており、全国平均を小学生は8ポイント、中学生は10ポイント下回っています。



「これまでに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生で28%、中学生では35%となっており、全国平均を小学生は3ポイント下回り、中学生では5ポイント上回っています。